

「軍事力に負けても外交で勝つ」

「自由、民主主義、法の支配といった価値観を共有する台湾は我が国にとって大切な友人です。台湾の現状維持を支持し、力による現状変更を許してはならない。」

これは、7月2日～4日、野党三党（立憲、維新、国民）で台湾を訪問した際、蔡英文総統はじめ政府や議会関係者に一貫してお伝えしたメッセージです。台湾は来年1月総統選挙が行われます。民進党と国民党の二大政党による政権交代が続いてきましたが、今回は有力な民衆党候補も現れ、どのような選択がなされるのか目が離せません。

ロシアのウクライナ侵略に加えて、日本周辺には、中国の海洋進出、北朝鮮のミサイル発射など、平和秩序を脅かす動きが活発化しています。緊迫化する国際情勢のなかで「日本丸」のかじ取りは大きな岐路を迎えています。

「自分のことは自分で守る力」を強化しなければならないと考えます。それは、決して防衛力だけを增強する道ではなく、「外交力＋防衛力」をバランスよく強化する道ではないか。

例えば、中国は日本のGDPの3倍、軍事費は5～6倍。防衛力を日本が倍にしても、到底及びません。最も危惧されるのは、台湾海峡有事です。中国の20分の1の防衛費にすぎない台湾が、中国の脅威から自身を守るために、外交力を駆使している姿を垣間見ました。

「防衛力を増強しなければ外交力も発揮できない」との意見もあるかもしれませんが。それは一つの道ですが、日本はその際限ない防衛力強化に国力を消費すべきではありません。

低下する国力のなかで、どうやって外交力を強化するのか。今、ここにこそ政治が力を注ぐべき時です。「戦争に負けて外交で勝つ」。荒廃した戦後日本を立ち上げさせようとした吉田茂元首相。「軍事力に負けても外交で勝つ」気概が必要ではないか。